



秋田県立 横手支援学校教育プラン

I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

1 学校の現状

(1) 児童生徒の状況

児童生徒数はここ数年横ばいか減少の傾向が見られたが、平成30年度は、やや増の状況である。横手地区の小・中学校の特別支援学級児童生徒数から推移すると、この後は80～90名前後の児童生徒数で落ち着くものと思われる。

現状からまた将来的にも小・中学部は、肢体不自由等の障害を併せ有する児童生徒、医療的ケアを必要とする児童生徒の増加が予想される。

中・高等部においては、特別支援学級や通常の学級からの途中編入のケースが見られ、発達障害、強度行動障害、統合失調症、情緒不安、不登校傾向の生徒等、多様な実態の生徒の在籍が増えてきている。

(2) 教育課程

児童生徒の多様な実態を踏まえて、日々、実践・評価にあたっている。個々の発達段階や障害種、個々の特性に対応する教育課程として「自立活動」の充実を掲げている。また、自立と社会参加（キャリア教育）（職業教育）を見据えた教育課程として、中学部に「職業・家庭科」、高等部に「職業科」と「家庭科」を導入した。

今後、より個々の実態に即した教育課程を構築するためには、合わせた指導と教科の適切な時間配分や指導内容の選択、教員の専門性の充実と教科指導力が必要である。

(3) 交流と連携

地域の小・中学校、高等学校と継続的な交流が行われ、活動も共同学習や地域貢献等、双方における交流の目的が明確になってきた。交流及び共同学習の出前授業の提供や依頼も徐々に増えている。中・高等部の作業学習での協力事業所等が増え、実習だけでなく、日々の学習と連携できる新しい作業種や作業内容が広がってきている。

2 施設設備（第三次秋田県特別支援教育総合整備計画）

平成31年度に開校40周年を迎える。小・中学部校舎は築40年、高等部校舎は築21年である。特に小・中学部校舎は老朽化が進み、高等部校舎は生徒の増加による教室の確保に課題がある。各校舎が離れていることでの肢体不自由児等の児童生徒の荒天時、積雪時の校舎間の移動の難しさもある。第三次秋田県特別支援教育総合整備計画の改築・改修に向けたスケジュールを見据え、第二次構想案をさらに現実的なものとし、本校の特色ある教育活動を加味しながら基本構想素案に繋げていく。

II 目指す方向性・学校像や幼児児童生徒の姿

学校像

一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加を目指してたくましく生きる児童生徒を育成する

- (1) あいさつが響きあう 笑顔のあふれる学校
- (2) 多様な教育的ニーズに応じて 一人一人の力を伸ばす学校
- (3) 地域に信頼され 地域に貢献できる学校

目指す児童生徒の姿

明るく 健康で 心豊かな明るい児童生徒
仲良く 協調性に富み 社会性豊かな児童生徒
元気よく 自ら意欲をもって働く児童生徒
『風の翼』 心に翼をもっていれば、自由に精神の世界を飛び回り
みずみずしい若芽の芽立ちができる

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

児童生徒の多様な実態と教育的ニーズに応じた教育課程

- 健康な生活への意識づけと体力づくりの推進
- 自立と社会参加（キャリア教育、職業教育）を見据えた教育課程の編成
- 合理的配慮の「個別の支援計画」への明記（合意形成）

多様な実態に対応する学習指導の充実

- ライフキャリアの視点による授業づくりと授業改善
- 横手のスタンダード（授業づくりの基礎・基本）の活用
- 自立活動、教科指導力の向上
- ICTを活用した学習活動の推進
- ミニ授業研究会の実施
- 自主公開研究会の開催（H30、31年度）

自立と社会参加に向けた進路指導、進路学習の充実

- キャリアノート（ステップアップ表）の活用
- 就職率アップと離職率ゼロの進路指導
- 実践的な職業教育の充実
- 企業連携型作業学習の拡充
- 地元企業・事業所、関係先との作業学習製品（製品開発）の連携
- 作業学習製品販売箇所の増設
- 魅力的な作業学習製品の開発と作業内容の充実（中学部）
- 『風のつばさ はばたき 大作戦』（高等部：進路学習3か年ビジョン）
 - 『作戦1』○作業学習班の再編成 ○事業所等との連携 ○職員の研修機会の設定
 - 『作戦2』○職業科（流通、サービス） ○家庭科（地域の食文化）
 - 総合的な学習の時間（社会体験活動と交流）
 - 『作戦3』○班別3か年計画（各作業班による新製品開発）
 - （地域の伝統野菜 組子細工 りんご灰釉薬皿（仮名）十文字和紙）

言語活動の充実につながる読書活動の推進

- 読書の時間やお話会、読み聞かせの充実
- 県立図書館、地域図書館、移動図書館の利用
- 図書室利用の活性化と豊かな読書環境の整備

交流及び共同学習の推進

- 小・中・高等学校との交流及び居住地校交流の推進
- 地域諸学校への出前授業の実施
- 心のバリアフリー推進事業に係わる「ボッチャ」競技による交流及び共同学習
- 県南4校特別支援学校連携による教育活動の活性化

地域資源を活用した学習活動の充実（地域交流 地域貢献）

- 地域行事、地域イベントへの積極的参加（小：横手シティマラソン）
（中：かまくら）（高：かまくら）
- 地域学習の推進（公共施設、商業施設、教育施設、市役所、病院、駅等）

特別支援教育の推進

- 幼保、小・中・高等学校への相談・支援の充実
- 関係機関との連携強化
- HPや学校展等による広報活動の充実

◎（第三次秋田県特別支援教育総合整備計画）校舎建築検討委員会による具体構想
◎創立40周年式典準備委員会による具体構想